

## ■第5回 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 会議録■

日時 : 平成20年10月23日（木）18時～20時  
場所 : 武蔵野総合体育館会議室（3階）  
出席者 : 委員 本村清人、河上一雄、大町洋、島本康子、本郷伸一、赤萩恵子、和田明子、  
後藤信義、古矢武士、茨木信、萱場和裕  
欠席委員 : 守屋るり子  
: 庁内ワーキングチーム 大久保宏、鈴木早代子、柴田直子  
事務局 : 担当課職員 西川和延（生涯学習スポーツ課副参事）、茂木孝雄（生涯学習スポーツ課  
スポーツ振興係長）  
: コンサルタント 黒崎晋司・木藤直隆（株式会社 地域計画建築研究所）  
傍聴人 : 3人

### － 議事要旨 －

#### □開会

#### □資料確認

本日の次第、「資料1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）施策の体系（案）」「資料2 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）施策の体系（案）事業案別」「資料3 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）中間報告（案）」「第4回策定委員会会議録」「むさしのスポーツ2008開催状況・来場者数報告」

#### □委員交代

事務局 : 10月1日付けで策定委員会委員である教育委員会教育部長について庁内の人事異動があり、直接ご挨拶させていただきたい。

委員 : 前任の金子教育部長から引きつがせていただいた萱場です。宜しくお願い致します。

#### □会長挨拶

委員長 : 本日の策定委員会では、前回の策定委員会での議論をふまえて事務局が修正した施策の体系（案）および中間報告案等についてご意見をいただきたい。

#### □議事

(1) 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）施策の体系（案）について（資料1、資料2）

委員長 : 資料1、2について事務局の説明をお願いしたい。そのうえで、質問等の時間をとりたい。

事務局 : 「資料1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）施策の体系（案）」「資料2 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）施策の体系（案）事業案別」について、主に以下の内容を説明した。

○「資料1 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）施策の体系（案）」

- ・前回の策定委員会のなかで、体系図について、ある程度整理ができているとのご意見をいただいております。「基本方針（4つの柱）」と「実効性の確保」という大枠についての変更はなく、全体として文言の修正をした。
- ・重点施策の候補として考える基本施策については、「(★)」で表記した。

- ・大きな変更点としては、基本方針「Ⅳ ライフスタイルの構築」の基本施策に「スポーツのもつ魅力の発見」という施策を新たに加えた。スポーツ本来の魅力である達成感や爽快感等、市民一人ひとりが実感できるような取組みを進めていくことなどを記述した。
  - ・前回の策定委員会で、「実効性の確保」は結果なのではとのご意見をいただいた。前回は、結果に相当するような基本施策もあったと認識し、それらは「基本方針」のなかで整理したもの、あるいは「実効性の確保」の「施策の考え方」のなかで整理をした。
- 「資料 2 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称） 施策の体系（案） 事業案別」
- ・「資料 2 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称） 施策の体系（案） 事業案別」について、主に基本施策ごとの新規事業として検討している事業案について説明した。
  - ・既存事業については、基本施策ごとに可能な限り整理し、担当課も記載した。また、新規事業案については、担当課候補を記述した。

委員長：いくつか事業のなかでも関連しているものがあるように思うが、そこも含めご意見いただきたい。

委員：「資料 2 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称） 施策の体系（案） 事業案別」の新規事業に「コンパクトスポーツの推進」（ラジオ体操～ストリートスポーツまで）とあるがどのようなスポーツが含まれるのか。

事務局：ウォーキングや簡単なジョギングなども含め、大がかりな道具を使わずにできるスポーツ、広い運動場を必要としないスポーツなどのイメージより、「コンパクトスポーツ」と称し、身近に接することのできる機会や時間を増やしていきたいと考えている。また、文言等については、計画で文章化する際に正確に記述していきたい。

委員：「市民スポーツ功労者の表彰制度」は施策として良いと思う。ここの施策に当てはまる内容か分からないが、現在進行形の支援策として、例えば、強化指定チームや強化指定選手などの形で市が認めることで、市の体育施設を優先的に使えるようにすることは可能かどうか。そのような市からの支援の代わりに、市のイベントに協力する形でお互いにとって良い関係をつくるといったことも考えられ、一つのステイタスになると思う。似たような仕組みは川崎市に事例がある。

委員長：JOC（日本オリンピック委員会）、サッカーくじなどのなかでも同様の仕組みがある。武蔵野市として、そのような強化指定の援助金が行くのかどうか。

副委員長：面白い内容だが、市民感覚、公平性など様々な観点から議論が必要な内容ではないか。

委員：トップアスリートのスポーツを「観る」という視点からも考えられると思う。また、個人的に「公平」に施設を使うのと「平等」は違うと考えている。「平等」は一律だが、「公平」は個人によって「量」も違ってくると思う。その辺りのさじ加減は必要だと思う。

委員長：トップアスリートと市民がふれあう機会をつくるのは大事だと思う。トップアスリートの支援も含め関連した内容としてのご意見だと思う。

事務局：確かに、川崎市には企業系の大きなスポーツ団体もあり、そのような強化指定の施策があるのは確認しているが、武蔵野市の場合、施設の規模も含め強化指定選手やチームに優先権を与えることは難しい。市の施設利用は、「市民競技場」という考え方が根底にある。限定的には可能かもしれないが定期的には難しいと思われる。

ただし、例えば、新規事業として検討している「地域アスリートの応援」のような事業のなかで、この延長線上に強化指定という取組みは段階を踏んでいくなかで有りうるのではないかと考える。

副委員長：基本的にはよくまとめられた内容だと思っているが二つ発言したい。

①施策の考え方として「スポーツによる地域の活性化」とあるが、基本施策は「スポーツによる地域の魅力づくり」「地域とのつながり・一体感の形成」「スポーツをつうじた元気な地域づくり」と三つある。各基本施策の事業案もふまえ、スポーツをつうじた地域の活性化を考えた場合、基本施策は「スポーツをつうじた元気な地域づくり」に含まれてくることも考えられると思う。再構成も含め検討してみてもどうか。

②市として「地域運動会」にあたる「市民大運動会」の事業が中断しているなか、今後の地域づくりをどのように考え進めていくのかという視点が欠けているのではないか。

事務局：「市民大運動会」は、平成2年から昨年まで18回おこなわれてきたが、地域からの声など様々なご意見を伺うなかで、「現状の形での継続は厳しい」という声も多くあり、今年度に発展的終了を決めた事業である。10月13日におこなわれた「むさしのスポーツ2008」なども、一部内容を引き継ぐ形で実施した。

「市民大運動会」は、各小学校区の対抗戦であり、各小学校区から最低限の人数は集めなければ対抗の形にならないため、人をある程度組織的に集める必要のあるスポーツイベントだった。多様化している市民の考え方などもふまえ、発展的に終了し、「市民大運動会」の担っていた意義や役割は違った形で他の事業などで担っていきたいと考えている。必ずしも一つのイベントに市民を集めておこなうことが地域のコミュニティの活性化ではないとも考えられる。市としては、「むさしのスポーツ」のような事業や地域スポーツイベントの支援などを考えている。

全市一体のイベントも魅力的ではあるが、小学校区ごとの地域の実情に応じた範囲で取組むようなスポーツイベントは市としてもサポートしていきたい。むしろ、全市的には、「地域アスリートの応援」のような形で進めていくなかで、地域の団結力につなげていくものと考えている。

委員長：「市民大運動会」は、ある程度人を組織的に集める必要のある地域対抗型のイベントだった。それを地域単独の地域密着のスポーツ振興にしていくということだと思う。

副委員長：実際には、地域によって、地域密着のスポーツイベントなどができるところとできない地域が出てきている。「市民大運動会」は、本来、市民の共同体としての意識を高めていくことを目的とした、コミュニティづくりとかかわるものであると思う。むしろ、コミュニティが壊れてしまっており、このようなイベントが地域でできないという現状をふまえた施策として、スポーツを通して地域の活性化を図るという意味では、もう少し表現の工夫をしていくことが大事だと思う。

委員長：基本施策にある「スポーツによる地域の魅力づくり」の事業案のところで少し工夫があると良いのではないか。

副委員長：基本施策の「地域とのつながり・一体感の形成」とあるが、地域として応援することで一体感につながるのかどうか。事業案にある「地域アスリートの応援」を含め、夢になる部分も加えながら整合を図ることも必要ではないかと思う。

委員：別の意見になるが、三つほど発言したい。

- ①「基本方針」にある基本施策「地域スポーツの担い手づくりの充実」は、重点施策の候補にもなっている。今回の計画のなかでも重要な施策だと思う。人を組織化して、どのように動かしていくのかということはポイントだと思う。「実効性の確保」にある基本施策「スポーツ教室・人材の派遣制度の充実」も同様に関連した施策だと思う。むしろ、「スポーツ教室・人材の派遣制度の充実」は「基本方針」で、それを実現するために「実効性の確保」として「地域スポーツの担い手づくりの充実」があるという関係でも良いのかもしれない。同時に、二つの基本施策の事業案を見ると所管課が違うので、一体性をもたせたほうが良いのではないか。
- ②「実効性の確保」にある基本施策「誰にでも分かりやすい情報提供」の事業案にある「ユニバーサルデザインにもとづく情報提供」については、市民にとって分かりにくい言葉ではないかと思う。「ユニバーサルデザイン」は、建築やバリアフリーなどのイメージが強く情報提供には馴染まないのではないかという気がしている。内容としては、もっと具体的な情報提供が必要だと思う。例えば、「障害者や高齢者が出て良いスポーツイベントなのかどうか」といったことがある。スポーツイベント等の案内の際に、「誰でも参加できる」とした場合、もう少し具体的に表現してほしい。
- ③「基本方針」の基本施策「誰もが楽しめる機会の充実」にある事業案「多摩障害者スポーツセンター等の活用」は、「活用」ではなく「連携」ではないか。積極的に武蔵野市もかわりながらスポーツ振興を図りたいという表現であるべきだと思う。

委員長：基本施策「誰もが楽しめる機会の充実」など、柱としては良いが運用する段階で明確にしてほしいというご意見だと思う。

事務局：「ユニバーサルデザイン」という言葉も一般化してきたように思う。最近は、建築だけでなく文房具や食器など様々なところに広がりを見せている。ただ、計画書のなかでどのように記述するかという意味では、言葉が独り歩きしないよう分かりやすく記述していく必要があると思う。

また、「ユニバーサルデザイン」と情報提供という言葉が馴染むのかどうかというご意見について、事務局としては、情報提供には、情報の中身と情報の伝わり方の分かりやすさがあると考えている。例えば、行政から直接市民一人ひとりに伝えたほうが良い情報もあれば、参加されている団体をつうじて情報を受け取るほうが受け取り手にとって、正確に伝わることもあると思う。このような点をふまえながら基本施策を立てさせていただいた。ただ、事業名称として分かりやすくということで「ユニバーサルデザイン」という言葉を使っており、委員からいただいたご意見と同じ問題意識で事務局も考えている。情報の中身と伝え方を工夫していかないと届けたい人になかなか届けられない。庁内ワーキングも含め、同様の議論をしているところである。

「多摩障害者スポーツセンター等の活用」は、「活用」ではなく「連携」ではないかというご意見について、連携しながらそこでの活動を武蔵野市にフィードバックしてくというお考えではないかと思う。文言については検討させていただきたい。

委員：施策のなかで「地域」という言葉が何度か出てくる。「地域」の定義について、武蔵野市なのか、学校区なのかによって違うと思う。武蔵野市全体や学校区単位など二つの使い方

があると思う。「地域」という言葉の使い分けも含め整理できると良い。

委員長：計画や答申のなかでは、どうしても一つの言葉のなかにも意味するところが二つくらい出てくることがある。今回の計画は、ビジョンであるので、ある程度文章で説明していくということにはなれると思う。

ここまでいくつかご意見いただいた。強化指定チーム等の対応については、今後の検討という形にしていきたい。また、副委員長からご意見いただいた「スポーツによる地域の活性化」の基本施策 3 本柱については、もう少し整理できるかどうか検討していきたい。

全員：異議なし。

## (2) 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）中間報告（案）について

事務局：「資料 3 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）中間報告（案）」について、主に以下のような内容を説明した。

- ・パブリックコメントの主旨、策定の経緯、策定委員会名簿、スポーツ振興計画（仮称）の策定趣旨（目的や計画期間）、スポーツ振興計画とは、現状と課題、基本理念、施策の体系、施策の概要など各項目について目次構成に沿って説明した。
- ・パブリックコメントの主旨について、提出方法や募集期間などを記載した。
- ・現状と課題について、「スポーツを楽しむ機会の充実」「年代に応じたスポーツのニーズ」「スポーツ活動の継続」「スポーツをするための資源」「スポーツの果たす役割」という視点から整理した。
- ・基本理念について、「ひと」と「地域」の視点から記述した。
- ・キャッチフレーズについて、「週に一度はスポーツしよう」「人も地域も健康に！」という二つのイメージ案を記述した。
- ・施策の概要について、前回の策定委員会での意見をふまえ各基本施策等について簡潔に記述した。

副委員長：本文のなかで、「地域づくり」と「まちづくり」という二つの言葉が使われている。「地域づくり」と「まちづくり」は、ある程度概念を整理したほうが良いのではないかな。

また、「基本方針」の基本施策であり、重点施策の候補である「子どもが親しめるプログラム等の充実」は、事業案で見ると、新規事業が一つも無いのはどうか。重点施策とするならば、文章の部分で「従来より一層充実していく」といった文言が入っていたほうが良いと思う。同時に、12 頁の文章にある「学校部活動」は、公立だけなのかどうか。市内の学校（小学校、中学校、高校）すべてという意味合いなのかどうか伺いたい。

14 頁にある「食育」という言葉の位置づけについても伺いたい。

委員：「実効性の確保」の基本施策に「スポーツ障害などの軽減」とあるが、予防という表現のほうが合っているのではないかな。

また、キャッチフレーズにある「人も地域も健康に」ということについて、他の文章では、「人を元気にしていく」といった文章もある。「健康」と「元気」と二つ出てきている。個人的には、スポーツをしても「健康」にはならないと考えている。怪我や疲労もある。ただし、「元気」にはなれると思っている。スポーツをつうじて「元気」になるにしたほう

が良いのではないかと。

委員：計画の目標について、ある程度、キャッチフレーズで表現しているのではないかと想定されるが、あえて目標を設定しなかった議論の経緯など伺いたい。

委員長：いくつかご意見をいただいたので事務局で回答いただきたい。

事務局：「地域づくり」と「まちづくり」について、一般的には「まちづくり」のほうが大きいのではないと思われる。「地域」の具体的な範囲を決めることは今回の計画の本質とは違うことになるが、「地域」の位置づけについて、今後もっと明確にしていきたい。「地域」が元気になっていくことで、広い意味での「まちづくり」につながっていくという流れのなかで言葉を使っているが、文章を整理し、「地域」の位置づけについて検討していきたい。

事務局：「資料 3 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）中間報告（案）」のなかで「地域づくり」と「まちづくり」は明確に概念を分けてはいない。今後、必要に応じて概念を明確にしていくことは考えられると思う。補足になるが、これまでどのようなスタンスで記述していたのか参考までに紹介させていただきたい。人に焦点をあてる場合は「地域づくり」という言葉を用いている。特に、スポーツは、人の健康や元気といったことにスポットライトをあてていることもあり、そこから人と人とのつながりをつくり、「地域づくり」へ広がり、コミュニティに結びついていくという考えから用いている。一方で、「まちづくり」は、もっと広く環境や産業振興など含めて、道路や公園などのハードを整備するだけでなく広い意味での言葉だと考えている。明確にはないが、そのような区別をしながら記述しているところである。

委員長：「地域づくり」「まちづくり」については、文章の前後の脈略等含め全体でもう一度整理していきたい。

事務局：「学校部活動」について、直接的に学校部活動と連携できるのは、武蔵野市立の小中学校になるが、現実的には、市内の体育施設を私立学校や市外の学校が利用しているという点もふまえ、広い意味での小学校、中学校、高校というとらえ方ができるのではないかと考えている。私立中学校でも、市内中学校体育大会に参加している部活もある。また、子どもについては、もう少し、学校という枠にとらわれずに記述していく必要もあると思う。

委員長：基本施策「子どもが親しめるプログラム等の充実」は、重点施策の候補でもあるが、新規事業は検討しなくて良いのかといったご意見もあったと思う。

事務局：「資料 2 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）施策の体系（案）事業案別」について、先ほど説明不足であったが、事業案までパブリックコメントに図ることは考えていない。基本的には、基本施策の段階までで市民に意見を伺う予定である。基本施策「子どもが楽しめる機会の充実」について、市では現状でも子どもに関する取り組みはかなり多く進めており、連携・充実を図っていきたい。そのうえで、新規事業についても必要であれば検討していきたい。

副委員長：文章のなかで「より一層スポーツ振興を図ります」という形で踏み込めると良いと思う。

委員長：何れにしても、新規事業を含めさらに検討していくこととしたい。また、「学校部活動」としてしまうと乳幼児期や小学生の時期は部活動が無いので、「放課後の活動や学校における部活動等と連携した」という形で修正していきたい。

事務局：「食育」については、学校教育という視点ではなく、全年齢を対象とした形で広い意味での「食育」としてとらえている。

副委員長：「食育」という言葉をどのような意味で使っているか分かりやすくすることは必要である。

事務局：先ほど、「健康」とスポーツは必ずしもつながらないのではとのご意見をいただいた。スポーツを追求していく人にとっては、スポーツは「健康」でないという側面もあるかもしれない。ただし、広く市民に呼びかけるスポーツ振興というなかでは、医療の面からもスポーツをつうじて「健康」を維持し、自分の身体健康管理をしてもらい「健康」に暮らしてほしいというメッセージをスポーツ振興としても伝えていきたいと考えている。そのような観点から「健康」というキーワードは使っていきたい。その前後の考え方として、心身ともに「元気」であるということも含めメッセージとして発信していきたい。

委員：「健康」になって、体力増進して「元気」になるという一つひとつの言葉を文章の流れのなかで分かるように記述していただきたい。

事務局：目標について、前回の委員会でも目標としての数値や目標となる大会などのご意見をいただいているが、中間報告の段階でお示しするのはまだそぐわないと考える。ただ、数値目標について、国や東京都も数値を出しているが、数値にこだわるのがスポーツ振興を図ることにつながるのかという部分も含めて、もう少し検討していきたいと考えている。

また、大会について、東京都では、計画のなかに東京マラソンを位置づけ大きな目標になっている。武蔵野市の場合、大規模な大会は開催できないので、競技性のあるスポーツであれば市民大会や市民体育祭などで身近な目標を設定することになるのではないかと思われる。そのような内容についても、今後の書き込みができれば良いと考えている。

副委員長：先ほど「元気」と「健康」の話があったが、キャッチフレーズについて、「健康で元気に」くらいまで記述してはどうか。

委員長：キャッチフレーズについては、委員の皆さまからもアイデアをいただきたい。

また、ここで確認をしておきたいのは、文章のなかに「運動」「スポーツ」「体育」といった言葉がある。ここでは、「スポーツ」という言葉をキャッチフレーズでも使っており、「スポーツ」に「運動」や「野外活動」も含むという、ある意味行政的な上位概念としてスポーツをとらえ整理しているということだと思う。共通理解をしておいていただきたい。

委員長：本日は、多くのご意見をいただいた。「資料 3 武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）中間報告（案）」について、いくつか整理を必要とするが文言などを調整して、パブリックコメントにかけていきたい。最後の文言の詰めについては、委員長と事務局で調整していくという形で、委員長に一任いただきたい。

全員：異議なし。

委員長：もし、本日資料を持ち帰ったうえで、お気づきの点があれば 10 月中に事務局にご一報いただきたい。

### (3) その他

事務局：10 月 13 日におこなわれた「むさしのスポルト 2008」について、主に来場者数および開催状況などを報告した。

また、別紙の「武蔵野スポーツ新聞」は、本日の傍聴者に携わっている方がおり、紹介も

含めお配りさせていただいた。

委員長：本日の策定委員会を終了したいと思います。

次回、第6回策定委員会の日程 11月18日（火）

- ・会議 19：00～21：00（会場 武蔵野総合体育館 大会議室3階）

第6回以降の予定

- ・第7回：12月 9日（火）18：00～20：00 武蔵野総合体育館大会議室
- ・第8回： 1月15日（木）18：00～20：00 武蔵野市役所西棟412会議室
- ・第9回： 2月 5日（木）18：00～20：00 武蔵野総合体育館視聴覚室
- ・第10回： 2月24日（火）18：00～20：00 武蔵野総合体育館大会議室

以上